

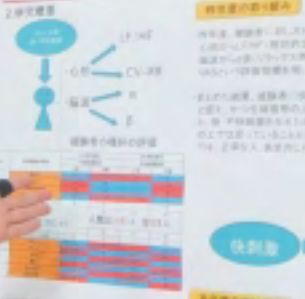


1 快・不快刺激の対比提示による主観評価の傾向分析

Analysis of the Tendency between the Change in Subjective Evaluation of Pleasant and the Change in Dopamine Level

ナリタ大学産業経済学部 経済学系 経済学専攻 経済学 経済学専攻 経済学専攻 経済学専攻

1. 目的
本論文は、快・不快刺激の対比提示による主観評価の傾向分析を行うことを目的とする。具体的には、快・不快刺激の対比提示による主観評価の傾向分析を行うことを目的とする。



3. 結果
主観評価の傾向分析の結果、快・不快刺激の対比提示による主観評価の傾向分析を行うことができた。具体的には、快・不快刺激の対比提示による主観評価の傾向分析を行うことができた。

